第 184 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)

A. 日時：2006 年 12 月 11 日(月) 13:30～17:00

B. 場所：東京・寺山パシフィックビル会議室

C. 出席者(順不同，敬称略)：

委員長： 穂積(愛工大)

委　員： 伊藤(日本ガイシ)，杣(日立電線)，東村(日立)，中坊(日新電機)，清水(東芝)，菱川(ハンツマン・アドバンスト・マテリアルズ)，加藤(新潟大)，山野(千葉大)，本間(電中研)，福永(情報通信研究機構)

幹　事： 内田(中部電力)，田中康(武蔵工大)

幹事補： 岡下(昭和電線)，高橋俊(電中研)

オブザーバ：江原(武蔵工大)

以上計 16 名

D. 提出資料

番号なし 第 183 回 誘電・絶縁材料技術委員会 議事録(案)　幹事団

184-1　誘電・絶縁材料技術委員会 委員名簿　幹事団

184-2　第 70 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録　幹事団

184-3　電気学会 高分子材料と放射線の相互作用評価技術調査専門委員会 第 1 回議事録　田中康幹事

184-4　第 12 回 ナノ構造制御有機薄膜及び複合膜の機能化と デバイス応用調査専門委員会 議事録　加藤委員

番号なし 第 13 回 ナノ構造制御有機薄膜及び複合膜の機能化と デバイス応用調査専門委員会 議事録　加藤委員

184-5　第 7 回イオンマイグレーションの発生特性と防止方法 調査専門委員会議事録　山野委員

184-6　電気学会 屋外用ポリマー絶縁材料の表面機能と 長期性能調査専門委員会第 3 回議事録　本間委員

184-7　電力設備の絶縁材料から見た劣化診断技術 調査専門委員会 設置趣意書(案)　江原氏

184-8　調査専門委員会フォローシート(2006 年度計画)　幹事団

184-9　平成 18 年度 誘電・材料研究会，技術委員会，その他行事予定(4 次案)　幹事団

番号なし 電気学会 油原氏からのメール　幹事団

184-10　技術委員会資料(3 月 誘電・絶縁材料研究会プログラム案)　田中康幹事

184-11　電気学会 基礎・材料・共通部門 活動資金報告書(ISEIM2005)　岡下幹事補

184-12　第 37 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウム収支報告　岡下幹事補
184-13　メールマガジンの発行状況　幹事団
184-14　メールマガジンの意見募集にて頂いたご意見　幹事団
番号なし メールマガジンの意見募集にて頂いたご意見(追加分)　幹事団
184-15　意見書　田中祀委員
184-16　シンポジウムをよくするために　穂積委員長
184-17　第 38 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウム
開催提案書(第 0 次案)　幹事団
184-18　第 38 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムスケジュール　幹事団
184-19　2008 International Symposium on Electrical Insulating Materials
開催提案書(案)　幹事団
184-20　ISEIM2008 Call for Papers(案)　幹事団
184-21　2007 年度 家田賞および矢作賞投票結果　内田幹事
184-22　情報通信のための誘電絶縁材料調査専門委員会 解散報告書　福永委員

E.議事内容

1. 議事録の確認，承認

岡下幹事補より第 183 回誘電・絶縁材料技術委員会議事録(案)の報告があり，原案通り承認された。なお，高電界電気絶縁における電荷挙動と界面調査専門委員会(長尾先生)の技術報告は完成，機器絶縁の最新部分放電計測技術調査専門委員会(木村氏)の技術報告は執筆中であることが，委員長より報告された。

2. 名簿確認，新委員紹介

資料 184-1 が確認され，菱川委員から自己紹介があった。

3. 第 70 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録

資料 184-2 が高橋幹事補より報告された。主な議事，質疑は以下の通り。

・A 部門誌の英文特集号と共通英文誌の棲み分けに関する議論があった。
・A 部門大会に対する意見集約があった。
・国際会議開催に際して科研費を申請する例があり，この場合は A 部門主催として申請することが確認された。
・基礎・材料フォーラムのシステム作りが検討されている。(後ほど議論。)
・各技術委員会の技術分野での長期ビジョン作成および中期目標の見直しが要請されている。当技術委員会では，幹事団にて取り纏めることとした。

4. 高分子材料と・・・調査専門委員会

同調査専門委員会の第 1 回会合議事録として，資料 184-3 が田中康幹事より説明があった。

5. ナノ構造制御・・・調査専門委員会

同調査専門委員会の第 12 回および第 13 回議事録として，資料 184-4 が加藤委員より説明があった。

6. イオンマイグレーション・・・調査専門委員会

同調査専門委員会の第 7 回議事録として，資料 184-5 が山野委員より説明があった。出版予定の単行本の原稿は，11 月に第 1 回査読が終了し，現在第 2 回の査読が実施されているとの報告があった。

7. 屋外用ポリマー・・・調査専門委員会

同調査専門委員会の第 3 回議事録として，資料 184-6 が本間委員から説明があった。2007 年 6 月開催予定の研究会は活発な討論を期待するとのコメントが穂積委員長よりあった。

8. 情報通信のための・・・調査専門委員会 解散報告書

資料 184-22 が福永委員から説明があった。主な議事，質疑は以下の通り。

・技術報告の発行部数は 100 部で OK か？

→PDF 化など検討されているが，現段階では，最低発行部数は 400 部。内 200 部は寄贈や予約販売。各委員会では 100 部程度は販売を進めてほしい。(電気学会に確認済：高橋幹事補)

9. 電力設備の絶縁材料から見た劣化診断技術調査専門委員会 設置趣意書(案)

資料 184-7 が江原氏から説明があった。一部語句の修正，委員名簿の整備を進めた上で研究調査運営委員会に提出することとした。なお，全国大会シンポジウムや ISEIM も視野に入れた活動を期待するとのコメントが，穂積委員長よりあった。

10. 調査専門委員会フォローシート

資料 184-8 に基づき，田中康幹事より説明があった。また，各委員から活動状況の報告があり，追記・修正することとした。インバータサージ関係の調査専門委員会を立ち上げる方向で，穂積委員長と木村氏(三菱電機)で協議することとした。

11. 行事予定(4 次案)

資料 184-9 に基づき，田中康幹事より説明があった。主な議事，質疑は以下の通り。

・H19 年 1 月の中部地区での有機エレクトロニクス研究会，1 月 25 日に名城大で開催予定，10 件発表予定である旨報告があった。

・H19 年 2 月の電線・ケーブル技術委員会と共催の研究会，2 月 8 日に東京で開催予定，10 件発表予定であることが報告された。

・H19 年度行事予定については，担当委員等を幹事団で見直すこととした。

12. H19 年 3 月開催予定の誘電・絶縁材料研究会「国際会議報告と学際分野紹介」について

資料 184-10 に基づき，田中幹事から説明があった。主な議事，質疑は以下の通り。

・日程は？

→3 月 26 日(月)に電気学会会議室としたい。技術委員会も併せて開催させて頂きたい。

・ICPADM，CMD2006 の報告者は？

→ICPADM は幹事団にて検討する。CMD2006 は内田幹事としたい。

13. 電気学会 基礎・材料・共通部門 活動資金報告書(ISEIM2005)について

資料 184-11 に基づき，岡下幹事補より電気学会 A 部門に提出する旨報告があった。活動の名称を修正し，岡下幹事補より提出することとした。

14. 第 37 回 電気電子絶縁材料システムシンポジウムの実施報告

資料 184-12 に基づき，岡下幹事補より報告があった。

15. メールマガジンについて

資料 184-13，184-14 に基づき，高橋幹事補より報告があった。

・メールマガジンは今後不定期に発刊する。

・意見募集を行ったところ，12 月 8 日昼現在で 3 件の意見が寄せられた（九工大・廣瀬先生，名古屋大・森先生，三菱電機・武藤氏)。また，武藤氏からは追加で A 部門フォーラムの利用に関するご意見もいただいた。なお，フォーラムの実施に関しては，幹事団にて検討することとした。

16. 田中祀委員からの意見書およびシンポジウムでの意見表明

資料 184-15 および 184-16 に基づき，穂積委員長より説明があった。シンポジウムを是非とも活性化させたい旨の表明があった。

17. 第 38 回電気電子絶縁材料システムシンポジウムについて

資料 184-17 が高橋幹事補より，資料 184-18 が内田幹事より，それぞれ説明された。要点は以下の通り。

・日程は平成 19 年 11 月 21 日～22 日とする。

・開催場所は電中研狛江で調整を進めている。

・一般募集テーマ，予算，予想参加者は幹事団を中心に見直しをする。

・ポスターセッションは，若手研究者対象の相互訪問ポスターセッションも開催したい。(ポスターセッション発表者のみが集まり，順々に各自のポスターを他の発表者に紹介し，質疑応答を行う。このとき，発表者相互で採点し表彰のベースとすること，また，ポスターセッション発表者以外は傍観することとする。)

説明に対し，以下の意見があった。

・ポスターセッションと企画セッション，招待講演は同一時間帯で行わない方が良い。

→スケジュールは仮案である。今後詰める際に充分考慮したい。

・学生員の参加費が高い。

→学生員の参加費を 2000 円，予稿集なしとし，予稿集が必要な場合は予稿集が必要な場合は 5000 円で販売することとしたい。なお，各セッションで発表される論文の予稿コピーは各セッション会場に用意することも検討したい。

18. ISEIM2008 について

資料 184-19 および 184-20 に基づき，高橋幹事補から説明があった。要点は以下の通り。

・開催場所は三重県を検討している。四日市市が有力候補である。

・日程は 2008 年 9 月 7 日～11 日とする。

また，募集テーマ，予想参加者数，予算，組織構成については，幹事団にて検討することとした。

19. 2007 年度 家田賞，矢作賞について

資料 184-21 に基づき，内田幹事(表彰委員長)より報告された。表彰委員会での検討結果をもとに技術委員会で協議した結果，松浦氏を家田賞受賞者に，関井先生を矢作賞受賞者にそれぞれ全会一致で決定した。穂積委員長より，各受賞者に受賞意思の確認を行うこととした。

F. 次回委員会

2007 年 3 月 26 日(月) 午前中　電気学会会議室にて(午後は研究会)

以上